

を配置し、他の観光施設では翻訳アプリなどを活用していますが、近年多くの国からの訪日が増加していることから、様々な場所・場面でコミュニケーションが図られる対応を検討しつつ、多様なニーズに応えられるサービスについて、観光協会を中心とする事業者の方々と協議を重ね、検討していきたいと考えています。

問② 工藤 孝一 議員

ビジターセンターでは、リリーパークや民泊施設の利用案内がなされていないという意見があります。外国人観光客を町内に招き入れて、関係人口の増加に繋がるようなビジターセンターでの案内や情報発信の工夫をしていただきたいと考えますが、再度町長の考えをお聞かせします。

答② 久保 弘志 町長

外国人観光客につきましては、素晴らしい景観を見るだけではなく、地域の食や体験をするということで大変喜んでいただけるとお聞きしていますので、今、観光協会が取り組んでいる新たなアクティビティの開発やおもてなしの中で、必要があれば

地が活性化しないといけないという思いは強く持っていますのでご理解いただきたいと思っております。

問③ 更科 浩司 議員

浜小清水のツーリストセンターで展示のイベントが開催され、多くの人が集まり、成功しております。

市街地の空き店舗に居住している方に管理していただきながら展示場として活用するなどできないのでしょうか。

答③ 久保 弘志 町長

浜小清水のツーリストセンターで開催されるだけでなく、市街地の空き店舗を活用した開催へと繋げることは十分理解できますが、実際居住している事情もありますので、商工会を中心に関係機関と協議しながら、支援できる部分は積極的に支援していきたいと思っております。



ば入浴券やリリーパークの入場券サービスを取り入れるなど、道の駅エリアを訪れた方が少しでも中心市街地に来ていただけるような策も含めて観光協会や関係機関のみなさんと検討していきたいと考えています。

商店街における空き店舗対策について

問① 更科 浩司 議員



商店街の空き店舗を借りたいという話は何件かあるようですが、トイレの問題等があり難しい状況です。小清水町内に観光客を呼び込む策として、イベントや直売店に空き店舗を活用するなどのお考えをお持ちか伺います。

答① 久保 弘志 町長

平成27年10月より取り組んでいる「商業起業化支援・活性化事業」

小清水赤十字病院の再編廃止案について

問① 木戸 寛治 議員



網走厚生病院に脳神経外科が開設されることは町民にとって安心が増しておりますが、小清水赤十字病院については、国の方策である拠点病院の集約・再編の対象として新聞報道され、不安に思っている町民も多数います。赤十字病院への今後の対応について町長の所見を伺います。

答① 久保 弘志 町長

厚生労働省は公立・公的医療機関の再編・統合に向けた議論を促すとして、検証が必要な全国424の病院名を公表しました。本町の小清水赤十字病院も含まれており、地域住民の皆さまには、病院がなくなってしまうのではないかと不安を抱いた方も多かったのではな

の活用による既存店舗の改修など、平成28年以降5件の新店舗、うち市街地では3件が新店舗を出店されています。

空き店舗の中には、住宅と併用のため、居住している実態から借用しづらいという例もありますが、「商業起業化支援・活性化事業」では、借用した店舗部分の水回りなどを含めた改修経費は補助対象となりますし、現在、防災拠点型複合庁舎建設計画の検討の中で中心市街地の活性化につながる「賑わいの創出」を検討していることから、本事業を令和2年度から3年間延長し実施いたします。この事業を有効に活用いただき、また市街地へ足を運んでいただくためには、独創性の高い魅力ある「賑わいのある空間」整備をめざすこととしておりますので、町民の皆さんの意見をお聞きしながら、商工会や関係機関と連携し、検討していきたいと思っております。

いかと思います。町としましても唐突な発表は大変遺憾に思っているところであります。

地域の医療提供体制については、引き続き本町の地域医療構想区単位である北網地域2市8町の自治体や医療関係者などで構成する調整会議において、地域の実情を踏まえた議論を行ってまいります。

小清水赤十字病院は町内唯一の医療機関であり、住民の健康はもとより、町の各種検診や予防接種の推進のほか、愛寿苑の医療体制を担うなど大きな役割を果たしておりますので、将来にわたって、町民の皆さんが適切な医療サービスを受け続けられるよう、しっかりと守っていかねばならない医療機関だと考えています。

人口構造の変化によって経営も厳しさを増すものと考えられますが、必要な財政支援に配慮しつつ、高齢化社会にあつては医療・介護の充実といった社会情勢などを踏まえながら、また、子育て世代からは強く要望のあつた小児科の開設準備も進められておりますので、近隣自治体の医療ニーズも捉えながら、病院と行政がしっかりと連

問② 更科 浩司 議員

新庁舎の賑わいの中身について報道がされましたが、役場庁舎ではなく、空き店舗を利用して商店街に賑わいを作る考えはないのか伺います。

答② 久保 弘志 町長

あくまでも防災拠点型複合庁舎を整備するものですが、プラスしてそこに人が集まるような空間を作り、ここを中心として住民コミュニティが再生するともに、中心市街地の活性化に結び付けてほしいという思いを取り入れていただいた基本計画となっております。市街地の活性化につきましては、さまざまなお成り制度等を作った対応してきた経過がありますが、さらに今何かをやらないと危機的な状況にあると考えています。

すべて行政が行うのには限界がありますので、ひとつの手法として市街地の中心にある役場庁舎に賑わいをつくり、商工会を中心に民間の力で市街地をどのように作り替えていくかを検討してほしいと考えています。

町が元気に見えるには中心市街

携を深め、小清水赤十字病院の維持・存続に取り組んでいきます。

JR釧網本線維持活性化プロジェクト

問① 瓜田 新一 議員



JR釧網線維持活性化協議会によって、緊急・臨時的な支援策がまとめられました。利用促進に向けた取り組み、小清水町独自の取り組み、今後の計画等をお聞かせします。

答① 久保 弘志 町長

釧網本線維持活性化協議会では、緊急的かつ臨時的な支援とともに、3つの事業を柱とした利用促進事業を進めています。

1つには、利用状況などの分析、検証を基に観光事業者、交通事業者と連携した観光利用強化促進事業。